

消費者物価 2.1%上昇 資源など高騰で

4月

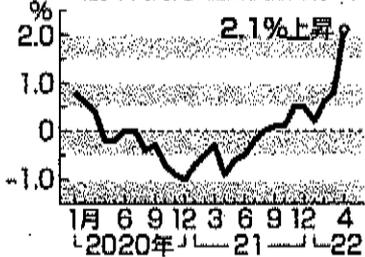
総務省が20日発表した4月の全国消費者物価指数(2020年=100)は、価格変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が101.4となり、前年同月比2.1%上昇しました。上昇は8カ月連続

で、伸び率が2%を超えた。15年3月以来、7年1カ月ぶり。資源や食料価格が高騰する中、昨年春の携帯電話通信料引き下げの影響が剥落したこともあり、前月の0.8%から上昇幅が大きく拡大しました。

電気代21%↑

灯油は26%↑

全国の消費者物価指数の推移 (前年同月比、生鮮食品を除く)



14~15年にかけての消費税増税の影響を除けば、08年9月以来

消費税増税の影響を除

13年7カ月ぶりの伸びとなり。日銀は13年以降、2%の物価上昇を目標に大規模な金融緩和を続けており、これを上回った格好。ただ、日銀は資源高などを背景とする現在の物価上昇は持続性に乏しいとみており、引き続き大規模緩和を続ける姿勢を示しています。

項目別にみると、エネルギー価格全体は19.5%下落。格安料金フ

ランの押し下げ効果が一巡し、52.7%下落した前月から下落幅が大きく縮小しました。総務省は「原材料の国際的な価格上昇や円安の影響により、エネルギーや生鮮食品を除く食料の上昇が効いた」と指摘しました。生鮮食品を含む全体の総合指数は2.5%上昇。生鮮食品とエネルギーを除く総合指数は0.8%上昇でした。